

府省横断的ワークショップの 結果報告

令和 6 年 4 月
内閣官房行政改革推進本部事務局
総務省行政評価局

【目次】

- 行政事業レビューシート改善に向けたコミュニケーション……………p. 2
- 拠出金・分担金ワークショップ取りまとめ……………p.10
- 法執行事務ワークショップ取りまとめ……………p.14

レビューシート改善に向けたコミュニケーション ①推進チームメンバーの役割

行政事業レビュー推進チームは各府省庁の「基礎的なEBPM」実践の要として重要な役割を担う

- **行政事業レビュー推進チームは、事業所管部局が作成したレビューシートを、事業の必要性、有効性、効率性の観点から点検し、改善につながるような指導・助言を行うなど、省内の事業全体の品質管理を担う。**
- 推進チーム内の役割分担については、EBPM推進部局は、EBPM的観点から目標・指標設定や政策効果の点検に係る助言等を、会計関係部局は、レビュー結果の概算要求への反映状況の確認及び取りまとめを行うことを基本とするが、効果的な連携について継続的に検討する。

「基礎的なEBPM」実践の壁を乗り越えるエバンゲリスト（先導役）



- 「基礎的なEBPM」に取り組む各担当者の、「理解する」（知識）→「意欲が出る」（モチベーション）→「前向きに実践する」（行動）というプロセスを促すためには、
 - 知識の壁（やり方がわからない）
 - モチベーションの壁（取り組むインセンティブがない、難しい）
 - 行動の壁（説明責任を果たせばいいという防御的コミュニケーションスタイルをとる）を乗り越えるために、省内の各事業所管部局に対して必要な情報の提供や働きかけを行う必要。

各事業所管部局に伴走し、省内の議論を活性化させるペースメーカー



- 省全体として、前向きな政策対話が行われ、政策の有効性をより高める営みが浸透するためには、取組の進度を上げるための推進チームの働きかけが不可欠。
- 行政官としての高い職業倫理を尊重し、そもそも難しい仕事であることをよく踏まえ、現場の工夫に耳を傾けた上で、変化の激しい現代社会において、どのように対応していくべきかの議論を先送りにしないよう、目配せする。

EBPMの手法を用いたレビューシート作成の考え方を浸透させるバディ



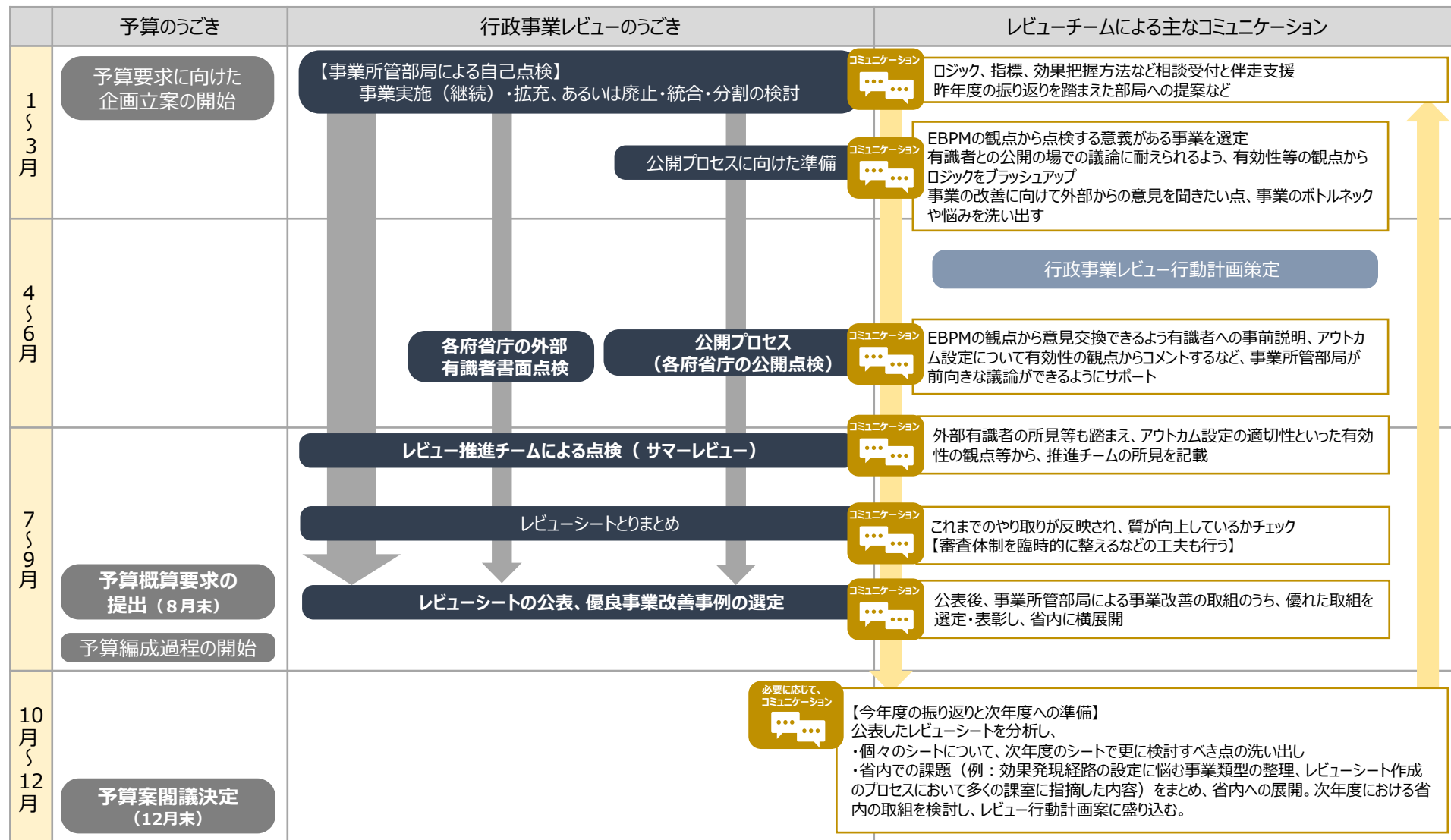
- 求められる姿勢を明らかにするとともに、**コミュニケーションを通じて、各施策レベル・事業単位で行っている工夫や、現場の苦労をすくい上げ、次なる行動・改善のヒントを引き出す**ことで、各事業所管部局の取組を後押しする。
- レビューシート作成の指導・助言を通して、**事業の目的、現状・課題、ロジックといった政策立案の内容について、事業所管部局の「意思」を明らかに**することで、事業所管部局が有効性等の観点からレビューシートを見直し、「次なる事業の改善」につながるものとすることが可能となる。

レビューシート改善に向けたコミュニケーション ②フェーズごとのサポート（イメージ）



府省庁内全体の取組のレベルを底上げするためには、年間を通じて、フェーズごとのコミュニケーションを意識して、事業所管部局の取組をサポートすることが重要。

また、次ページ以降の質問例も参考に、心理的安全性を確保したコミュニケーションを通して、各事業所管部局から次なる行動・改善のヒントを引き出し、行動変容を促すための問いかけを繰り返すことが有効。



推進チームの点検をレビューシート改善につなげるための視点

推進チームにおいて、府省庁内のレビューシートを点検する際は、いきなり効果発現経路（アウトプット、短期・中期・長期アウトカム）が妥当かを近視眼的にチェックするのではなく、**まずは効果発現経路の前提となる【現状・課題】、【事業の目的】、【事業の概要】の記載に不足している要素がないかをチェックする。**（制度・事業に精通しない第三者が見て理解可能な内容になっているか。また、第三者だから気づくこともあることを意識）

社会や環境の変化をとらえるためアップデートなものとなっているかを「常に」確認

【現状・課題】、【事業の目的】、【事業の概要】において、やりたいことがわかるようにする

1

現状・課題

背景事情や前提条件を洗い出す

現状と理想とのギャップから
政策課題を整理する

2

事業の目的

事業の必要性を意識する

事業の目的を
ブレイクダウンする

3

事業の概要

アクティビティ

課題解決のために何をしよう
と意識するかを意識する

事業概要の記載を見直し
個別のアクティビティとの関係性
が読み取れるようにする

4

アウトプット

短期アウトカム

中期アウトカム

長期アウトカム

事業の実施によって想定される
効果発現経路を深掘りする

【ロジックのつながり】を整える

レビューシート改善に向けたコミュニケーション ④推進チームによる問いかけの例

【現状・課題】をより精緻にとらえるための問いかけ

- 課題等の現状把握を行いつつ、社会課題に関する仮説を構築し、「あるべき姿」や「ありたい姿」と現状とのギャップを明確にし、解決すべき社会課題が設定されているか、という観点で【現状・課題】の内容をチェックする。
- 情報の不足がないかを確認するために、5 W1Hをはっきりさせる。

When = 課題がいつ生じたのか（喫緊の課題なのか、潜在的な問題として捕捉しているものなのか）

Where = どこで（日本全国、対象地域、産業分野等の対象範囲）

Who = 政策の対象者は誰か（あるいは対象施設は何か等）

What = 「あるべき姿」や「ありたい姿」は何か

Why = 課題が生じている原因は何なのか、その解決のために政策介入する必要があるのか

How = どのように課題を解決しようと考えているのか（仮説の構築）

- 情報の不足に無自覚である場合も往々にしてあるため、事業所管部局の暗黙知になっている認識を引き出し、言語化してもらうための問いかけを行うことが有効。

1

現状・課題

背景事情や前提条件を洗い出す

現状と理想とのギャップから
政策課題を整理する

事業がアプローチしているのは、政策・施策レベルの課題の、どの部分なのかを明確にしよう

- ✓ その事業によって直接解決しようとしている「具体的」な課題は何か。



ありたい姿に至るまでの道のりの遠さをどう自覚しているのか聞いてみる

- ✓ 現状とありたい姿とのギャップの大きさや課題解決の難しさについて、事業所管課室としてどうとらえているか。



現状についての自己評価をしてもらい、必要であれば見直すための動機にしよう

- ✓ 事業を実施してきた結果としての現状について、事業所管課室としてどのように評価しているか。
- ✓ 事業の在り方を見直すべきタイミングはいつか（少なくとも検討する必要性を感じていないか）。
- ✓ 課題は、現時点の課題としてふさわしいものを設定できているか。



これまで課題の見直し・改善をどのようなタイミングで行ってきたか振り返ってもらう

- ✓ 現況を踏まえ、事業開始時（あるいは法制定時）からの社会情勢（取り巻く状況）の変化・変遷や行政側の事情の変化（職員数の減少等）が見られるか。
- ✓ 当該事業で最近（ここ数年）力を入れているところ、新しい課題だと思っているところはないか。



レビューシート改善に向けたコミュニケーション ④推進チームによる問いかけの例

【事業の目的】について深掘りするための問いかけ

- 【事業の目的】を読んだ人に、事業の必要性が伝わることを意識して記載すべき。
- 第三者からみても説得力があるか、という視点で【事業の目的】の内容をチェックする。
- 根拠法令や閣議決定、通知等を前提条件としつつ、その存在を示すだけでは不十分。
- 後々獲得すべきエビデンスや成果指標につながるため、社会全体がどのような変化を遂げているのか、今どのような問題が生じていて、どのようにして改善した状態にもっていきたいのか、事業所管部局の「意思」を引き出すためのコミュニケーションを意識する。

2

事業の目的

事業の必要性を意識する

事業の目的を
ブレイクダウンする

政策・施策レベルの内容ではなく、事業自体の具体的な目的をしっかりと書くために詳しい説明を促す

- ✓ 事業を通じてどのような状態にしたいか。いつまでにそのような状態にする必要があるか。
- ✓ どのような状態になっていれば、事業が問題なく実施できている（うまくいっている）といえるか。



事業自体の目的と政策レベルでの目的を行ったり来たりすることを意識付けする

- ✓ 「本事業単独で達成を目指す目的」と「他の政策手法も合わせて達成を目指すさらに大きな目的」とを切り分けるとしたら、本事業単独で目指す目的をどう説明できるか。



事業の目的について考えが固定化していないかを確認する

- ✓ 当年度時点での、事業の目指すべき姿をどう理解（解釈）しているか。
- ✓ 目指す姿は、例えば法制定時・事業開始時と全く同じなのか、あるいは情勢変化に応じた方向性や解釈の変更はあるのか。（事業を開始した背景について、開始当時の状況について説明してもらおう、あるいは、事業を取り巻く状況の変化をどう認識しているか、その影響はないのかを聞いてみる）



【事業の概要】について深掘りするための問いかけ

- 事業概要で、個別のアクティビティに触れ、アクティビティとの関係性がよみとれる内容にする（ポンチ絵に頼らずとも事業概要がわかるように言語化する必要）。
- 情報の不足がないかを確認するために、5W1Hをはっきりさせる。

When=いつから、いつまで（事業開始時期、事業実施期間、事業終了予定）
Where=どこで（日本全国、対象地域、産業分野等の対象範囲）
Who=政策の対象者は誰か（あるいは対象施設は何か等）
What=政策対象者に対しどのような政策介入を行うのか（アクティビティ）
Why=なぜ政策介入する必要があるのか（必要性の担保）
How=どのように実施するか（効率性、有効性の担保）
- 各アクティビティの実施を経て目的を達成しようとするまでのロジックのつながりや、目的達成に向けた効果発現経路のチェックポイント（＝各アウトカム成果指標や目標年度）の意味について、事業所管部局としてしっかりと説明できるようにすることで、【事業の概要】に不足している記載内容が明確化する。

3

事業の概要

アクティビティ

課題解決のために何をしよう
としているのかを意識する

事業概要の記載を見直し
個別のアクティビティとの関係性
が読み取れるようにする

事業の主要なメニューを具体的に記載してもらう

- ✓ この事業の主要なメニュー（＝アクティビティ）にはどのようなものがあり、事業概要と個々のアクティビティとの関係性を説明できるか。
- ✓ 事業の目的に近い抽象的な記載ではなく、具体的に実施するメニューが明確になっているか。



事業の重点がどこにあるのかを明らかにする

- ✓ 事業所管部局として、事業の現状・課題等を踏まえて、今後特に力を入れたり、改善したいと感じているメニューは何か。



レビューシート改善に向けたコミュニケーション ④推進チームによる問いかけの例

改善に資する【アウトカム】・【ロジックのつながり】を再検討するための問いかけ

- 事業の有効性（目標を達成するため、より効果の高い方策は何か。直面するボトルネックは何か、それをどう越えるか）に着目することにより、成果の検証を可能とする定量的な【アウトカム】が設定できないか。
- 設定した各アウトカムは、「あるべき姿」や「ありたい姿」に向かう、望ましい変化を測定できるものになっているか。事業所管部局の目論見が読み取れるものになっているか。
- 第三者の視点から、アウトプット～長期アウトカムまでが一連のストーリーとしてつながっているか。アクティビティが、アウトプット～短期アウトカム～中期アウトカム～長期アウトカムへと至る過程（ロジックのつながり）について、それぞれの因果関係をよりわかりやすく説明できないか。
※「予算ありき」であったり、根拠法令や閣議決定、通知等のみを前提条件に掲げて事業の目的を設定したりすると、ロジックが上手くつながらず、行きづまるケースが散見される。そのような場合には、目的設定に立ち返ることも有効。

4

アウトプット
短期アウトカム
中期アウトカム
長期アウトカム

事業の実施によって想定される
効果発現経路を深掘りする

定量的な指標（エビデンス）の設定可能性について認識を合わせる（定性的なアウトカムのみの設定となるかどうか）

- ✓ 指標の設定について「本当はこのような把握したいが、こういった事情があって把握が困難である」「定量的な指標が設定できない」等悩んでいる点はあるか。（エビデンスの必要性と、効果測定の可能性（コスト含め）について天秤にかけること、現実的な落としどころを探る）
- ✓ （直接的に効果を測定できる指標がない場合）施策を取り巻く状況を表す何らかのデータは存在しないか。



望ましい変化を捉えられる指標を見つけるための投げかけ

- ✓ 目指す姿に向かって事業を執行する中で、何が変化することがポイントなのか（ステークホルダーはだれか、どう変化したらそのステークホルダーは効果を実感できるか。あるいは、変化した状況を客観的にとらえた際にどのようなことが言えるか）。



従来の検討内容とは違う切り口で効果測定の可能性を探る

- ✓ （事業の効果を示す指標の設定に困難を感じている場合）業務が滞りなく遂行できているか等、質の改善を図るための指標（例えば、「厳格性」、「円滑性」、「迅速性」、「正確性」、「実効性」、「効率性」、etc.）の観点で指標を設定することを検討できないか。



レビューシート改善に向けたコミュニケーション ④推進チームによる問いかけの例

改善に資する【アウトカム】・【ロジックのつながり】を再検討するための問いかけ

ボトルネックを発見するための投げかけ

- ✓ 事業所管部局として、今後、特に力を入れたい点、実際に業務を行っていて難しい・改善したいと感じている点はあるか。それを実現するために障壁となっているものはなにか。障壁を乗り越え、目標を達成するためにどのような対応が必要か。（障壁があるからといって、単純に実現可能なものにアウトカムを書きかえればよいというだけではない）



効果の発現経路の論理的な飛躍を是正するためのきっかけづくり

- ✓ 直前のアウトカムの実現は後続のアウトカムにつながっているか。（第三者から見てつながりが読み取れない場合は、【後続アウトカムへのつながり】欄で丁寧に説明する必要がある。また、論理的な飛躍がある場合は、中期アウトカムを新たに設定するなど効果発現経路の見直しが必要。）



事業所管部局として目指したい姿をより明確化するための問いかけ

- ✓ 変化（事業の効果）を示す象徴的なエピソードはないか。（事業のやりがいを感じたエピソード、代表的な摘発事例（公表案件）なども可。レビューシートへの記載は、当然、公表できる範囲で構わない。）



拠出金・分担金ワークショップ取りまとめ



STEP 1

まずは、「事業の目的」「現状・課題」欄等で整理

国際社会が直面する課題がどのようなになっていて、当該課題の解決に向けて、国際機関がどのような目標を達成しようとしているのか、国際機関を通して、日本としてどのような状態を目指すか、日本に期待される役割は何かという全体像を整理

- ①専門的知見やネットワークを有する国際機関を通して日本にとって効果的な取組が行われるメリット、
- ②一方で裁量の限界等※があり、日本としてどのようにこれら課題に対応しているのか

を表現すると、手段や取組の妥当性を説明できる

※ 例：他国と共同で拠出するという仕組み上の限界 等

紛争の頻発や経済状況など外部要因の影響を受ける場合が多いことから、当初どおり進捗していない場合、進捗に影響を与えた外部要因を補記する

※ 現在の事業が効果を発現した後の次のフェーズが想定される場合も補記することが望ましい。(ex.研修事業により実施国・地域の政府内で人材育成を行った後、実施国・地域自身が自立的に人材育成を行うことを想定)

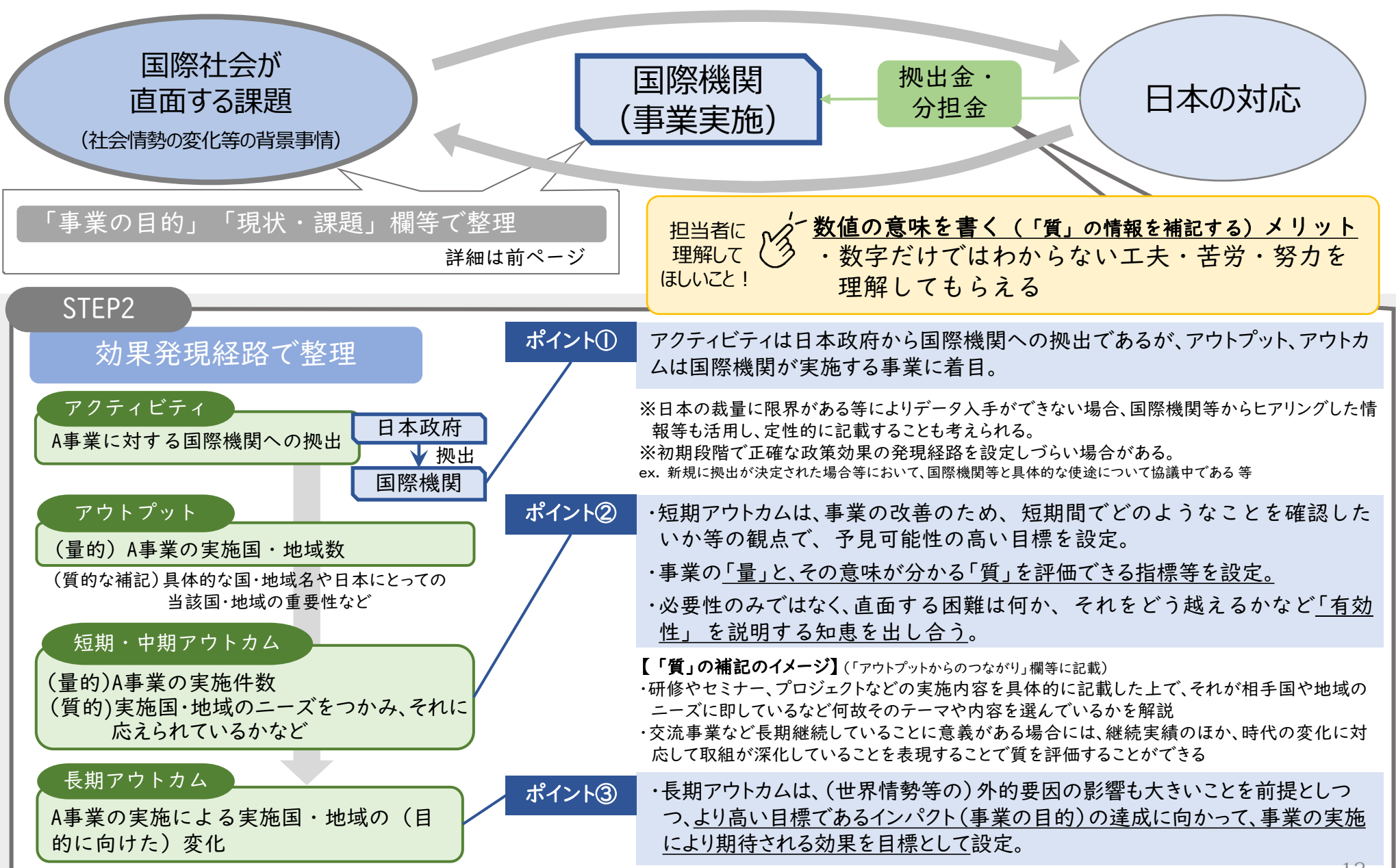
効果発現経路で整理 詳細は次ページ

担当者に理解してほしいこと！

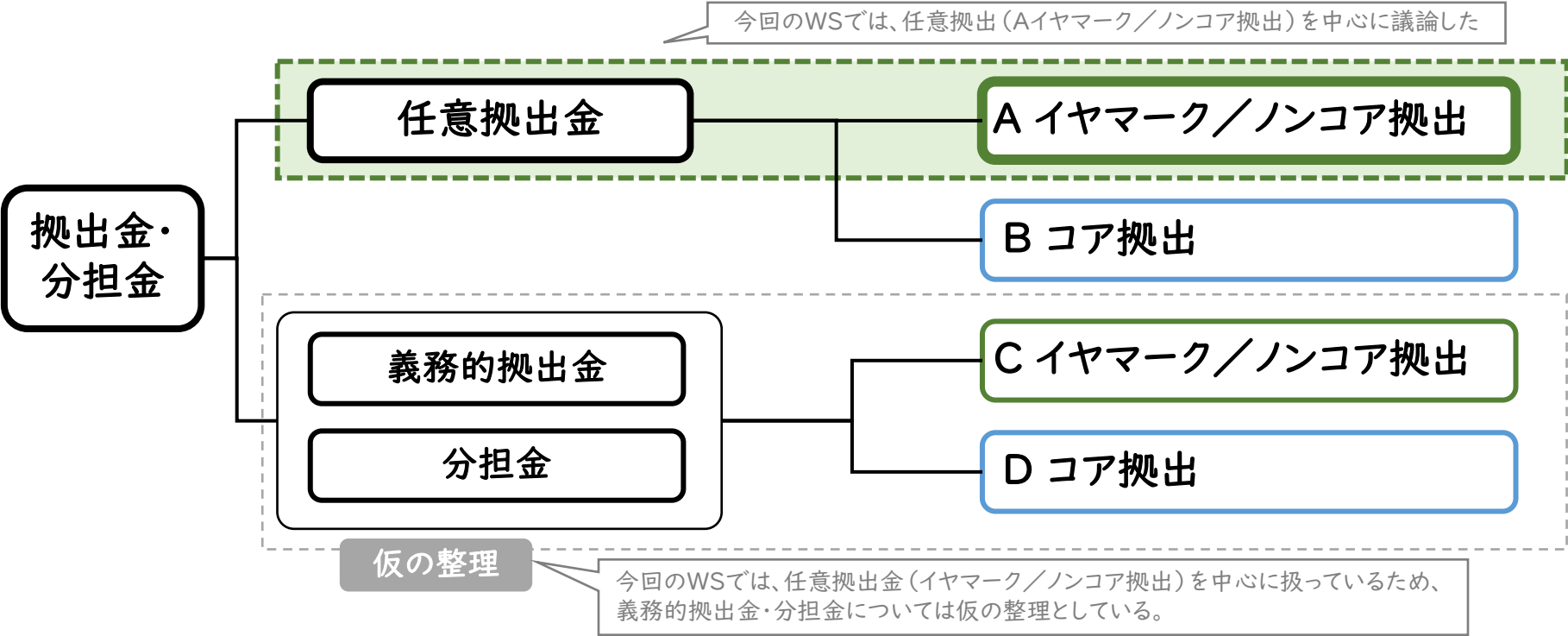
当事者以外が読んでも分かるように「事業の目的」「現状・課題」欄等を素直に書くことのメリット

- ・読んで理解できないことによる、論点のずれた指摘を誘発しない
- ・いきなり指標探しをすることがなくなる。

・おのずと、短期アウトカム、長期アウトカム、当面何ができたかというストーリーが整理され、次のステップである「効果発現経路」の解像度向上につながる



【参考】ツリー構造による拠出金・分担金の整理



任意拠出金	・ 必要性、効率性、有効性を踏まえた政策的考慮に基づき拠出する資金 ・ 締約国や参加国の当然の責務として拠出が期待されるものでなく、各国が有益と考える場合に行う拠出
義務的拠出金	設立条約等の法的根拠に直接の規定はないものの、締約国会合や総会、執行理事会等の意思決定機関の決定や規定等によって、締約国や参加国の当然の責務として拠出が期待されているもの
分担金	国際機関の設立条約や2国間の条約等により加盟国の財政的義務を含め規定されているもの
イヤマーク／ノンコア拠出	・ イヤマーク（使途を指定し、特定国・地域、特定分野の事業の実施経費に充当）するもの ※ 使途の中には、運営費・人件費に紐づけられる場合もあり得る ・ 特定の目的を持つ（ex）途上国の人材育成）事業等に拠出するもの
コア拠出	国際機関の運用維持等に充当されるものとして拠出しているもの

（注）1 本図は、各府省庁が上記分類とは異なる取扱いや考え方を行うことを妨げるものではない。
2 任意拠出金、義務的拠出金及び分担金の「【定義】」は、国立国会図書館調査及び立法考査局「国際機関の分担金・任意拠出金」（2021年12月20日）を基に記載している。

法執行事務ワークショップ取りまとめ

法執行事務分野における取組イメージ STEP 1

解決すべき課題

STEP 1

まずは、「事業の目的」「現状・課題」欄等で整理

世の中の変化などにより、解決すべき課題（需要）がどのように
なっていて、それに対する行政による対応（供給）にはどういった
ことが求められるのか、
その事業における目的とは何かという全体像を整理

法令や閣議決定等に基づき粛々と事業を実施していることのみを表現するのではなく、

- ① 変化※1をどう捉えて、どう取り組んでいるか
- ② 変化によるリスクを顕在化させないために、どう取り組んでいるか※2を表現すると、取組の妥当性や現場の苦労・悩み（＝事業の質を上げる努力）が伝わり、財政当局など関係者の共感を得ることができる

※1 例：国際情勢の変化、技術革新、インシデントの発生、審査対象の急激な増減、人手不足・技能継承者の減少、不正事案の複雑・困難化等

※2 【記載イメージ（「現状・課題」欄）】

地球温暖化等の環境変化により、審査対象がここ数年増加傾向にある（年平均〇件増）。審査する職員は増やせない中で、安全評価の実施水準（年〇件程度）を増やしていく必要があり、申請のオンライン化、形式チェックのシステム化による効率化を進めているところ

→効果発現経路において、例えば、短期アウトカムとして「1件当たりの処理時間（〇時間）」の設定につながる。

行政による対応

効果発現経路で整理

詳細は次ページ

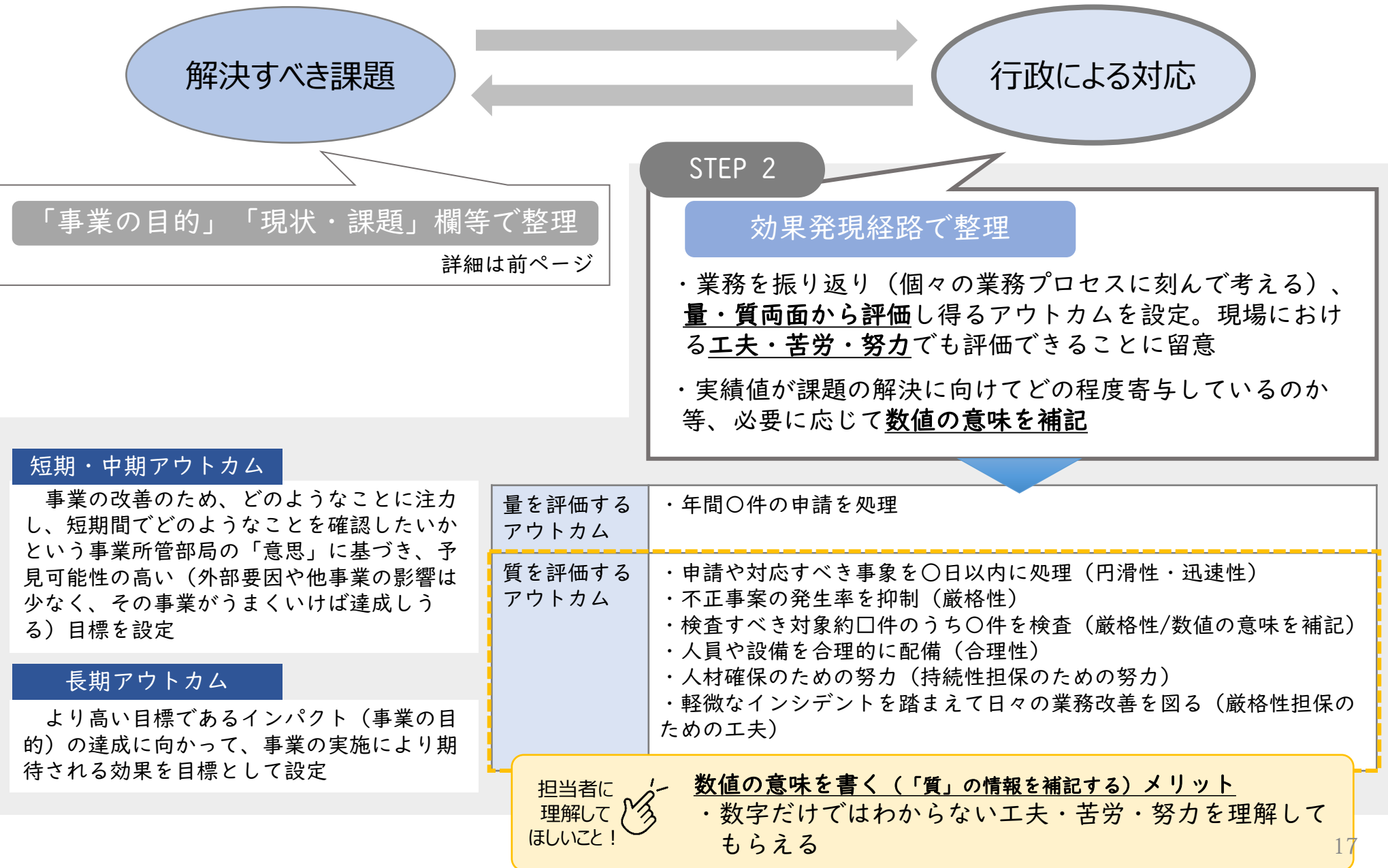
担当者に
理解して
ほしいこと！

当事者以外が読んでも分かるように
「事業の目的」「現状・課題」欄等
を素直に書くことのメリット

- ・読んで理解できないことによる、論点のずれた指摘を誘発しない
- ・いきなり指標探しをすることがなくなる

- ・おのずと、短期アウトカム、長期アウトカム、当面何ができたらいのかというストーリーが整理され、次のステップである「効果発現経路」の解像度向上につながる

法執行事務分野における取組イメージ STEP 2



「質」の評価に係る記載（例）

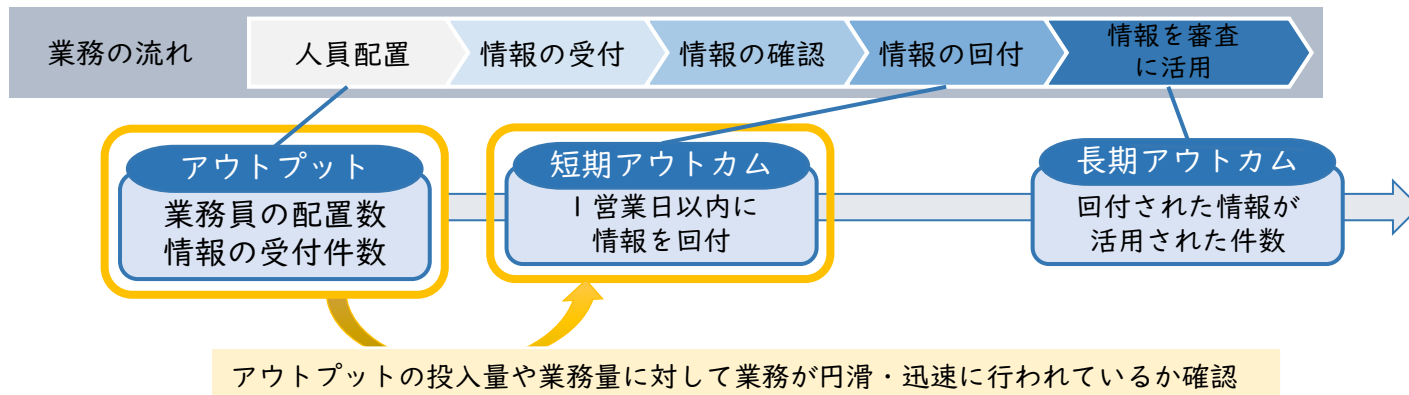
円滑性・迅速性	「アウトカム」欄に記載	・申請や対応すべき事象に対し、適切な期間内に処理が終えられているかを指標とする	例) 申請の受付から○日以内に解決した割合
		・円滑な執行のため、必要な備品等を迅速に整備できているかを指標とする	例) 備品を事前の計画どおりに確保した割合
厳格性	「現状・課題」欄に記載	・業務がルール通りに漏れなくできていることを記載する	例) ○○要領に基づき、作業期間内に対応できている。
		・期限内に処理が終えられなかったものについて、その後の対応状況（放置せず、解決に結びつけたか等）を記載する	例) 唯一、○○事例については作業期間内に対応できなかったが、××によって最終的には解決した
	「アウトカム」欄に記載	・不正事案の発生を抑制できているかを定性的なアウトカムとして設定	例) 厳格な出入国審査ができているかを定性的なアウトカムとして設定しつつ、増加している出入国者数も踏まえ、口頭審理件数、上陸拒否件数等に基づいて総合的に評価する（各種指標は、「アウトプット/アウトカムからのつながり」欄に記載）。
		・円滑な執行のため、故障率を低下させること等の必要な備品等の稼働状況を指標とする	例) 故障率○%
現場における苦労・工夫・努力	「現状・課題」欄に記載	・人材を確保する上で工夫・苦労している点を記載する	例) 受託できる専門機関が減少しているため、一件当たりの単価を上げないと受託者が見つからない状況。
		・現場の業務の質を評価する（褒める）観点からも、業務を実施する上での日々の努力として行っている工夫を記載する	例) 修理待ちの在庫を積み上げないように、各整備工場での整備期間を調整の上、在庫数を割り振っている。
		・業務プロセスの改善など現場の努力・工夫を記載する	例) △△というインシデント事案を受け、○○ガイドラインに防止策を反映した。
		・対応すべき事象が増えていたり、対応が難しい状況になっていたりする場合は、その要因・現況を記載する	例) 安全保障環境の変化を踏まえ、整備期間を○○ヶ月程度に縮めることが必要とされており、現在の備品数では整備が間に合わない状況。
	「アウトカム」欄に記載	・実績の数値が持つ意味を補足説明する（第三者に対する説得力を高めるため、専門性の高い分野については特に有効）	例) ○○検査においては、「排出量□□トン以上の物質の検査数」を活動指標としている。これは□□トンを超えると土壌への影響度が無視できないとの研究結果を踏まえたものであり、実際に□□トン未満の物質による土壌汚染は観測されていない。

「質」の評価に関する指標の設定例

質の視点での指標の設定例①

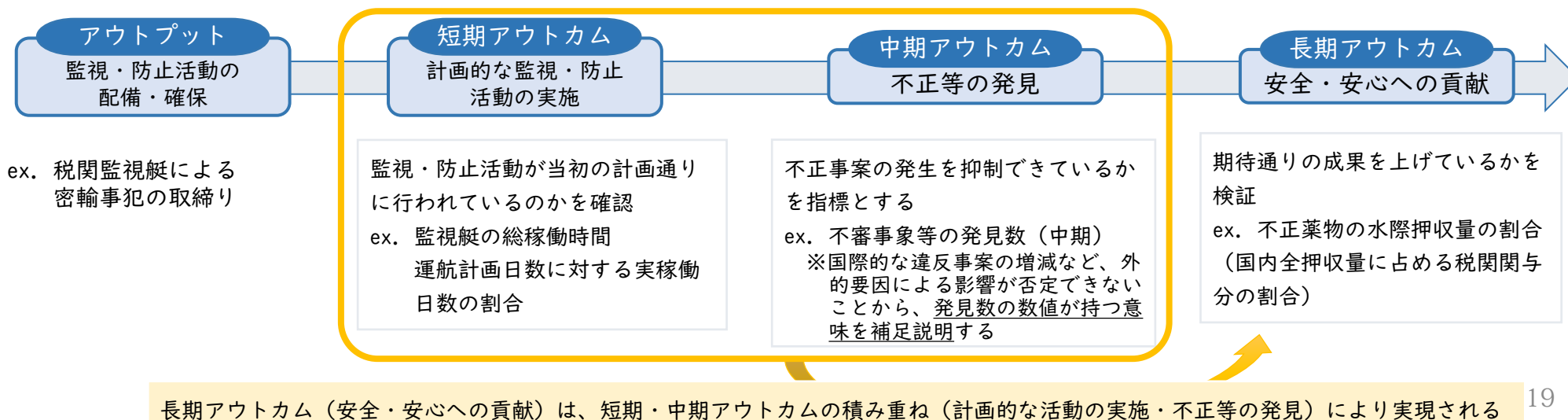
人員の投入量等に対して、対応すべき事象が〇日以内に処理できているかという質の視点（円滑性・迅速性）で指標を設定

ex. 不正の疑義のある
情報の回付



質の視点での指標の設定例②

業務が当初の計画通りに行われているか、期待通りの成果を上げているかという質の視点（厳格性）で指標を設定



アクティビティの分類案（法執行）

WSの議論を踏まえた、法執行の業務の分類としては、大きく2つ

- ① 申請に基づいて許認可等を行う事務
- ② 民間事業者等において違法行為等が行われていないかの監督・監視
（必要に応じて報告徴収や立入検査等）

このほか、行政事業レビューの対象となる予算事業においては、

- ③ 上記の機能を発揮するために予算計上しているものがある。
（予算の費目・使途としては、物品購入や修繕等）

これらについても、法執行の政策目的にどう貢献するのか、どう関係しているのかを意識して検討する必要がある。

「行政事業レビューシート 政策効果の測定のポイント」（以下「測定のポイント」という。）の事例を①～③の分類に当てはめると、それぞれ以下のとおり。

- ・ 出入国管理業務の実施（法務省）（測定のポイントP.62） . . . ①
- ・ 市場の公正確保のための経費（金融庁）（測定のポイントP.61） . . . ②
- ・ 税関監視艇整備運航経費（財務省）（測定のポイントP.65） . . . ③
- ・ 大型X線検査装置整備等経費（財務省）（測定のポイントP.66） . . . ③

当初の書きぶり

【現状・課題】

経済産業省・環境省と共管する化審法に基づき、新たに製造又は輸入される化学物質（新規化学物質）について、事前審査のために届出又は所要の確認を受けるため申出される件数は年間約30,400件であり、これらを各省庁の観点から分担して処理している。また、法制定前の既存化学物質を含む新規化学物質以外の一般化学物質の数は現在、約30,000物質で、このうち、年間約13,000物質で製造・輸入の届出があり、既存のデータに基づいて評価等を実施し安全性の確認を行う。なお、既存化学物質を含む新規化学物質以外の一般化学物質について、既存のデータが不足しているものについては、安全性の確認の一環として毒性試験を実施しているが、近年、費用が高額な試験の公共入札が不調となるケースが出ており、活動実施の試験数が伸び悩んでいる。

新規化学物質等の届出又は申出を電子的に受付、データベース化するための3省情報基盤システムの管理では、維持管理のほか、事業者の利便性向上のみならず、有害性情報等の届出内容を審議等の効率化に資するために更改を進める必要がある。

亀井先生のコメント

リスクを顕現化させないことが大事であり、それに対して日々の営みがどう行われているかを表現できれば、スクリーニングしていることの妥当性を表現できると思う

亀井先生のコメント

- ・ ある種の環境変化が記載されていることが良い
- ・ つまり、民間側の担い手である専門機関が減ってきているというところをきっちり書かれていることが良い
- ・ 時代の変化をどう捉えているかという点をRSの「現状・課題」欄で表現すると、悩みが伝わるようになるし、財政当局との議論でもよく伝わるようになる

指摘を受けての見直し案 ※第2回WS

【現状・課題】

化審法に基づき、新たに製造又は輸入される化学物質（新規化学物質）について、国で事前審査や事前確認等を行っており、年間約30,000件の届出に対応している。また、新規化学物質以外で上市済みの一般化学物質（約30,000物質）のうち、年間約13,000物質で製造・輸入の届出があることから、これらについては、国が入手できる最新の既存データに基づいて複数の毒性指標のスクリーニング評価を実施し、必要に応じてさらに詳細な安全性の評価を行っている。なお、新規化学物質の届出に対する対応（事前審査、事前確認等）については、法定又は別途示している行政側の作業期間内に対応できている。一方、一般化学物質について、既存のデータが不足しているものについては、安全性の確認の一環として国が毒性試験を実施しているが、近年、費用が高額なReproTox試験等の公共入札が不調となるケースが出ており、活動実施の試験数が伸び悩んでいる（令和5年度では、ReproTox試験の調達2件はいずれも不調）。

その他、新規化学物質等の届出又は申出を電子的に受付、データベース化するための3省情報基盤システムの管理では、維持管理のほか、事業者の利便性向上のみならず、有害性情報等の届出内容を審議等の効率化に資するために更改を進める必要がある。

※スクリーニング評価、詳細評価ともに一般毒性、生殖発生毒性、変異原性、発がん性の4種類を確認。

※ReproTox試験は一般毒性、生殖発生毒性を同時に見るもの。

ポイント

「現状・課題」欄等に、当事者以外が読んでも分かるように、社会情勢の変化に伴う現場の工夫を記載することで、効果発現経路の解像度が上がるのではないかと

修正後

日々の営みがどう行われているかをより分かりやすく記載（※下線部が修正内容）